

# 城園都市

駅から岡山城にのびる桃太郎大通り。  
しかし、肝心の城の姿は見えない。  
日本三大庭園の後楽園のある街。  
しかし、街なかには緑は少ない。  
「城園都市」岡山のシンボルとして、  
大通り沿道を再生することにより、  
岡らしい緑と水と歴史の風景が見え、  
その魅力に人々が都心を集まる。  
岡らしい快適で創造的な暮らしが見え、  
その魅力に人々が都心に戻る。

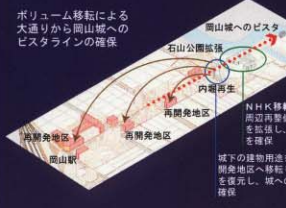
- 提案主旨**
- 岡らしいダイナミックな風景の保全と創造  
岡山の天守閣、後楽園の風景の広がり、美しい曲線を描く旭川の流れ、操山の借景など、ダイナミックな城園の風景をもつ岡山の景観特性を保全・創造し、水と緑と歴史の豊かな「城園都市」を岡山の将来像とする。
  - 城園都市軸「桃太郎大通り」の中心性の構築  
自然豊かな操山を背景とし、岡山城から岡山駅へと伸びる桃太郎大通りは、都市の中心である「城園都市軸」と位置付ける。岡山の都市イメージの骨格として、歴史的建造物を活かした景観構成、街の顔となる辻の整備、大通りの並木の増設などにより、見せる風景を構築する。
  - まちづくりの連鎖反の発生  
都市イメージの構築には時間を要するが、既存の地域資源を磨き上げ、それらの個性をつないでいく事によって、連鎖反のまちづくりのシナリオを実現していく。また、その実現母体として、まちづくり会社を設立する。まちづくり会社は、多様なセクターの連携を促すために、イニシアティブを発揮して、岡山都心の活性化のムーブメントを引き起こす。
  - 創造性豊かな都心コミュニティの再生  
既存のしっかりとした地域コミュニティを基盤として、豊富なオープンスペース、文化・交流施設の集積、2つの商業拠点へのアクセスの利便性など、都心居住の魅力に新たに集まる人々を包含した都心型コミュニティを形成し、人と人とのつながりの魅力から、岡山の新たな都市文化を創造する力を生み出す。



## ■景観場のコンセプト 3つのスケールによる風景デザインコントロール

### 大景観＝岡らしいダイナミックな景観

- 桃太郎大通りから岡山城を見せる  
桃太郎大通りのアイストップのシンボルとして、岡山城を見せるために、ピスタ軸線上に位置する高層建築物を、沿道再開発予定地へ移転する。
- 後楽園の背景を守る絶対高さ規制の導入  
岡山が誇る後楽園の庭園景観を守るために、絶対高さ規制を導入し、高層建築が後楽園の景観をこれ以上阻害しないようにする。
- 都心を貫く緑の東西軸の形成  
操山～岡山城・後楽園～都心へと連なる、東西の緑のネットワークを形成するために、大通り沿道地区の緑化を重点的に行う。



### 中景観＝城下町らしい落ち着いた景観

- 壁面構成と色彩の統一  
高さ12m以下の基礎部は、城下町らしい落ち着いた色調とし、上層部は圧迫感のない明度の高い色調として、通りの建物景観の連続性を持たせる。
- 辻広場の整備  
再開発等で建替えが生じる場合には、交差点側や大通り側にオープンスペースを整備する。カフェやイベントスペースとしての賑わいが湧出しやすいようにすると共に、コーナーのアイストップの緑化による景観率の向上をはかり、緑を多く感じる辻空間とする。
- 歴史的建造物の再生  
城の石垣や西手橋など、現存する城郭建造物を積極的に見せるとともに、内蔵を復元して、城下町の風景を再生する。その他の歴史的建造物も保全活用して、街を歩く際に歴史の積み重ねを感じ取れるようにする。



### 小景観＝都心らしい品格と賑わいのある景観

- 自転車レーンの整備  
車道を減らして自転車レーンを確保することにより、歩行者と自転車共に快適に通行できるようにする。また景観に配慮した駐輪スペースを確保して放浪自転車による景観阻害を防ぐ。
- 店舗の張り出しによる賑わいの演出  
自転車レーン整備によりゆとりが生じる大通りの歩道に、カフェなどの店舗の張り出しを認めて、歩いて楽しめるストロートの賑わいを演出する。
- 広告物規制による品格のある景観づくり  
上層部の広告は原則として禁止し、基礎部の広告は形態を制御することにより、品格のある大通りの景観を確保する。
- ストリートアイデンティティの構築  
情報伝達計画、サイン計画、V.I (ビジュアル・アイデンティティ) 計画の策定により、大通り地区のわかりやすいイメージをつくる。



## 操山～岡山城・後楽園～都心へと連なる、緑豊かな「城園都市軸」の形成

### 岡山の歴史的なコンテクストの継承

川と山を活かした城下町形成のコンテクストを再生するとともに、分散した拠点・交通・自然のネットワークの中心軸として大通りを位置付ける。



**元禄**  
旭川の付け替えと小高い丘の利根山より城郭を築いた。旭川の豊富な水量を活用して、灌や用水を引き、防衛と水灌に活用した。また、西園街道を付け替え、城下町に商業集積させた。旭川の水運と利根山の造山活動の交通網形成として京橋の運が整備された。

**現在**  
明治維新により東が重んじられ、西園により城ははじめとする建物が消失し、城下町の構造が失われた。その後、新緑の街道に古い建物が残った。中心部が移住化した。歴史的建造物も大半消失された。利根山の造山活動が分散しており、操山から都心への緑の連続性が無い。

**将来像**  
操山・岡山城・後楽園・運動公園の大規模緑地帯をネットワークする緑の軸を都心の東西・南北方向に形成し、都市の歴史を再構築し、都心の個性を向上させる。また、山の手や野山を磨き、乗り入れにより、公共交通のアクセス利便性を向上させ、都心の個性を強化する。

### 岡山のシンボルとなる城園都市軸の強化



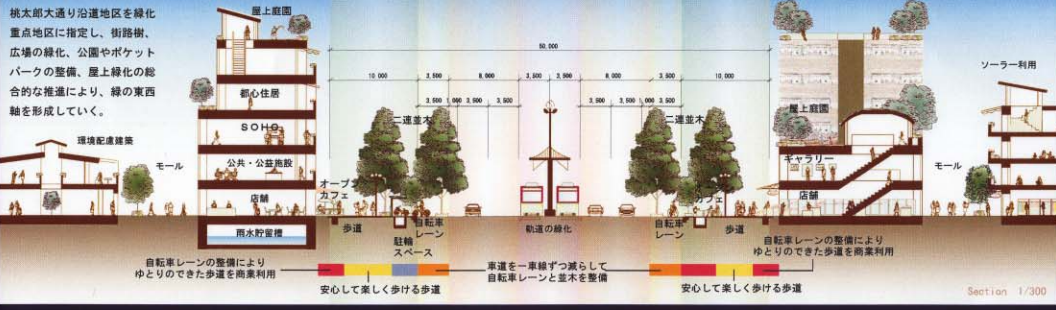
- 都心を東西・南北に貫く緑の軸  
西川緑道の緑の南北軸に加えて、桃太郎大通り沿道を緑の東西軸として、都心の緑のネットワークを構築する。
- 3つの交通拠点をつなぐ環状LRT  
岡山駅前・表町・市役所の3ヶ所の交通結核機能を強化し、LRTでこれらの交通拠点を環状に結び、都心の一体的な交通ネットワークを構築する。
- 中心街を回遊する歩行者優先街路  
駅前と表町の2つの繁華街や、商店街をつなぐ回遊軸として歩行者優先街路を整備し、歩いて楽しめる歩行者ネットワークを構築する。
- 5つの都心ゾーンをつなぐストリート機能や位置付けから都心を5つのゾーンに区分し、多様性のある各地区の形成を誘導する。桃太郎大通りをはじめとするストリートで各ゾーンを結び、市民の連携を促すアクティビティネットワークを構築する。

### 城園都市軸のダイヤグラム

既存の地域資源を活かしてネットワーク化



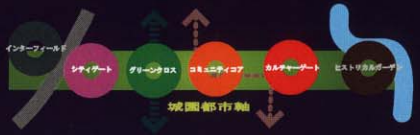
## 自然と共生する都心の庭づくり ～歩いて楽しむ回遊性のある道・街・庭空間



# 大通り四辻

4つの大きな交差点周辺をまず整備することにより、大通り全体のイメージ向上へと波及する。ゾーニングや土地利用形態から、それぞれの交差点にテーマ性を持たせ、「大通り四辻」として街を築いていく。さらに大通りの延長線上にある岡山駅西口や岡山城・後樂園と結び、城郭都市軸を形成する。

約300m間隔の辻は、歩いて退屈しない距離であり、楽しい街歩きが期待され、駅前から表町・城下までの連続した一体感が生まれる。また、辻において水や緑の結界をつくることにより、城下町が持つ重層的な構成を再生する。



**シティゲート 第4の「丘」の誕生**  
橋上駅と連続する2階レベルに駅前公園を整備し、天神山、石山、岡山に続く第4の丘として、水と緑の広がる新たなシンボル空間を創造する。城郭都市軸において岡山城・後樂園エリアと対極をなす緑の拠点となる。



**グリーンクロス 水辺に向かう街並みの形成**  
緑の東西・南北軸の交点である西川には、周辺の再開発と合わせて親水性的な広場を設け、周辺街区は水と緑を生かした街並みを整備する。川沿いの道路の片側は、歩行者専用モールとし、ゆったりと歩けるようになる。



**コミュニティコア 山崎町口門の再生**  
後樂園独特の「芝居」を由来とした芝生の円形ロータリーをつくり、外堀と山崎町口門をモチーフにしたランドアートにより、城下町の結界を強調する。広場に面した街区には、市民活動の新しい拠点を形成する。



**カルチャーゲート 内堀の復元**  
城郭と街中の接点である城下交差点において、内堀を復元し、城内外の結界を再生する。江戸時代の建造物である石垣や西手橋を見せることにより、城下町としての歴史を顕在化させる。



## 立体的な都市の庭の創造

立休公園制度を活用した都心部における公園拡大

駅東西のつながり  
LRT駅の移設による交通結節性の強化  
デッキ下の駐輪場整備  
吹き抜けによる自然採光  
駅前公園  
吹き抜けによる一体性  
ゲートビルによる、デッキ・地下街から周辺商店街への動線連続性の確保

## 多様な集積による新しい都心生活の創造

大通り沿道地区に集まる様々な人々の新しい暮らし方が、お互いに見えるようなまちづくりを行うことにより、人と人との交流が生まれ、都心における新しい公共や、創造的な都市文化が育まれていく。そうした暮らしの魅力に惹かれて、さらに多くの人が集まっていく連鎖反応により、拠点=辻をハブとして、多様な集積を持つ城郭都市軸へと成長していく。

## 活動場のコンセプト

### 岡山の都市文化を創るストリートマネジメント

まちづくり会社による持続可能な地域経営

根拠大通りの持続的な発展をトータルコーディネートする「まちづくり会社」を設立する。内閣省、地元企業、地権者、NPO、行政、研究機関等の各セクターの連携を促し、地域参加・地域経営の視点をもった地区全体の連続的なまちづくりの総合マネジメント業務を行う。

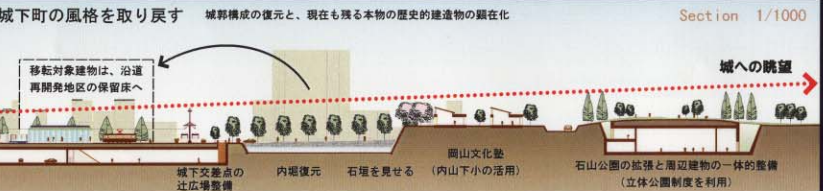
## まちづくり会社の5つのトータルマネジメントアイテム

- ① TPM: トータルプロジェクトマネジメント  
段階的な地域発展（第一ステップ、駅前広場・内堀復元等、第二ステップ、市民活動センター・親水広場整備）を誘導するための総合的な事業化推進を行う。  
(開発手法検討、事業者選定)
- ② TDM: トータルデザインマネジメント  
創発的デザインを導入し、地元住民等を含めた「タウンアーキテクト」制度を導入し、地区全体のデザインコントロールを行う。  
(異業種イデオロギ、デザイン審査会、専門家派遣等)
- ③ TTM: トータルテナントマネジメント  
ゾーニングコンセプトを表現する総合的なテナントマネジメントを行う。  
(コミュニティビジネスセンター、チャレンジショップ等)
- ④ TOM: トータルオープンスペースマネジメント  
指定管理者制度の活用による戦略的公共空間の管理・運営を行う。  
地区管理費やオープンカフェ利用料、広食料等を収入源とした地区全体のオープンスペースの管理、イベント活用・沿道公共施設の運営による歩いて楽しい連続空間づくり)
- ⑤ TIM: トータルインフォメーションマネジメント  
地区のアイデンティティやアクセシビリティを高めるタウンアーキテクト制度を導入し、地元住民等を含めた「タウンアーキテクト」を設立し、地区全体のデザインコントロールを行う。  
(異業種イデオロギ、デザイン審査会、専門家派遣等)

## 景観シミュレーション

(柳川から岡山城方向を望む)

現状では、城下交差点から岡山城までのボススタライン上に建物があるため、大通りから天守閣を見ることができない。内堀の復元や、石山公園の拡張に合わせて、建物を移転、あるいは低層・地下化するにより、ボススタラインを確保する。



## 城下町の風格を取り戻す

城郭構成の復元と、現にも残る本物の歴史的建造物の顕在化

移転対象建物は、沿道再開発地区の保留地へ

岡山文化塾  
内堀復元  
石垣を見せる (内山下小の活用)  
石山公園の拡張と周辺建物の一体的整備 (立休公園制度を利用)

## 情報・交流拠点

- 商業集積ゾーン(34棟)  
駅前沿道地区のシンボルとして、立休公園を軸とした、商業集積ゾーンを創出する。このエリアは、駅西口から駅前公園にかけて、歩行者にとって非常に魅力的なエリアとなる。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。
- 駅前公園(17棟)  
MOMOと同じデザインでつくった岡山山崎町駅前公園を整備する。駅前公園の魅力を高めるため、大通りの沿道に歩行者にとって非常に魅力的なエリアとなる。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。
- 交通・商業拠点  
駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。

## 情報・交流拠点

- 駅前公園(17棟)  
MOMOと同じデザインでつくった岡山山崎町駅前公園を整備する。駅前公園の魅力を高めるため、大通りの沿道に歩行者にとって非常に魅力的なエリアとなる。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。
- 交通・商業拠点  
駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。
- 地域環境拠点  
駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。
- 文化・芸術拠点  
駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。
- 歴史・観光拠点  
駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。また、駅西口の駅前公園を整備し、駅前公園と連続した一体感を創出する。